

2001/02/27

2001 年 2 月 26 日 日本テレビ氏家社長 定例記者会見 < 要旨 >

質問：青少年社会環境対策基本法、個人情報保護法、法務省・人権救済機関設立構想についてですが、あらためまして社長のお答えを。

氏家社長：

全体の流れが、世の中の悪いことはすべてマスコミのせいだという感じだ。マスコミの場合は、新聞は恐いから手が出ないからテレビとか雑誌とかそういうところを叩こう。こういう具合になってるんじゃないかなと考えているんですね。

どうも、今の国会は、以前に比べて、数が多ければ絶対だって意識が強くなりすぎたんだろうと思うんだね。過半数さえもてばなんでもできるっていう、考え方が強くなった。でね、これはねイギリスの政党誌なんか読むとよくわかるんだけど、マイノリティーを尊重するということが、少数党を尊重するっていうことが、議会政治の基本ってことが描いてあるわけだね。それを数の力で押し切っていくという観念が政治の中で蔓延しすぎているんだよね。20年前よりはね、そういうところがね、発想がこういうふうに来ていると思いますけどね。トータルとしては、そういう感想をもっているんですよ。重大な問題だと思ってますよ。

質問：青少年保護法案なんですけども、それは可決されるでしょうか？

氏家社長：

むずかしいところですね。その可能性もありますね。ただし、それをやった場合には世界中の笑いものになるだろうね。

記者：この件に関しては、民放連のほうも反対声明をだしてらっしゃいますけど、このあと何か、おやりになる予定は？

氏家社長：

ええ、動きが出てくれば、やりますよ。

質問：今年にはいってペンクラブとか、日弁連とか、ずいぶん各方面から反対の声がぞくぞくとあがっているんですが、それについてはどう思われます？

氏家社長：

やはり日本の中にも正しい民主主義を理解している人がいるなという感想を持っています。

質問：日本テレビとして、番組とかニュースとかで、何かおっしゃることはありますか？

氏家社長：

今のところは考えていませんが、やらなきゃいけない時がくるかもしれませんね。

質問：今のテレビの表現の仕方っていうのはこのままでいいか。

氏家社長：

それは絶えず研究していかなければいけない問題だと思うんです。いいものもあると思いますが、悪いものもあると思います。そこそこ、今の良識の範囲内では、いいかなっていう表現だと思いますよ。

質問：氏家さん、ああいうイエロージャーナリズムを表現の自由の担保として、そこまで認めなければならぬかどうかということを年末におっしゃってましたが、そのへんはどうですか？

氏家社長：

僕はね、問題は結局、言論の自由を封殺して、民主主義を危うくする道へ進むことと、イエローでくだらない話なんだけど、言論の自由の担保として必要悪として、認めるかというなら、後者を取るよという考え方なんですよ。

質問：CS110°事業ですが、プラットフォーム事業もだいぶ進んでいると思いますが、サービス内容等々お話いただけることがありましたら。

久保メディア戦略局長：

いわゆるプラットフォーム事業については 3月の上旬頃には社名を具体的に決めましょうということになっています。その社名も、我々の事業の発展性を願って、幅広いコンセプトで集めようということです。

質問：CS日テレの方は？

久保局長：

これはスケジュールが固まりだして、3月の16日に設立総会を開きまして、3月27日に設立登記をするという方向です。私どもの日本テレビ・読売新聞社を中心とするCS事業に関しては、認定取得後もいろいろな大企業のみなさんから、御関心をいただいております。またそれなりに、出資のお話などもさせていただきまして、しかし現場レベルでは採算性のある番供をいかにとりこむかということですけど、こちらもつばぜり合いということで、ここに出席する直前まで今も、やって来たところですけども、我々はもちろん事業について楽観もしていないし、悲観もしていない。私達の強いブランド力をいかに発揮するか。

氏家社長：

我々はやろうやろうと言うけど、我々が事業を独占するとか考えてないよ。参加してぐれとことは、みんな同等の資格でやろうということにしていますからね。実際CSって事業はね、はっきり言って、地上波がこれだけあって、BSがあって、CSに専門チャンネルがって言うんだけど、何の専門チャンネル見るのCSで？専門専門っていうけどどの程度の枠で、価格でご提供できるかってこと、そのへんの兼ね合いであるんだね、CSっていうのはよほど、低めに設定しないとお客さんは、つきにくいと思う。

質問：BS放送、スタートして3ヶ月が経ちましたが、普及状況等々含めてお話を。

BS日テレ漆戸社長：

12月1日に昨年スタートしたわけなんですけど、それまでみなさんにはアドバレーンも含めていろいろ景気のいい話を、申し上げていたんですが。当事者としては「そんなにいいかな」という、不安も抱えてスタートした訳ですけど、そういう意味からすると、実は不安を超えた状況でスタートできたんじゃないかなと。というのが偽らざる感想です。

で、直接受信と言っても、私どものBSデジタル放送についてはCATV通じでの受信と直接受信と2種類考えられているわけですから、意外とこれが早かったのがCATV通じでの受信です。2月末で、BS日テレとしては、CATVを通しての受信が260局、そのうちデジタルからアナログに変換して受信している局が160局、デジタルで放送できる局が100局。ということで、だいたい視聴可能世帯が120万世帯。それから、直接受信です。BSデジタルチューナーが、2月末ということで40万。内蔵型テレビが20万。両方あわせて60万。ということで、視聴可能ということがさきほどのCATV入れますと、約1

80万世帯が可能だということ。そういう状況になってきたようです。このとおりには行かないと思いますが、我々も含めて年末には300万世帯が、視聴可能になるのではないかと。

ありがたかったのはスタート当初から、BS日テレだけではなくて、各社ともに大型スポンサーが1社提供も含めまして、デジタル放送に広告を出してくださった。これは、予想外でした。新しいスポンサーではなくて、既存の大手スポンサーが、全部ご提供いただいた。BSデジタル放送の提供に参画いただいた。というのが、心強いし、BSデジタル業界の特徴です。

BS日テレでは一応4月以降のジャイアンツ戦の中継の、日本テレビグループとしての方針が決まりまして、10時から1時間の、まだ正式に名前は決めていないんですが、東京ドームのジャイアンツ戦のハイライト放送をやる。ということではおぼかたまりました。これが、大体70試合くらいあるんですけど、これはハイライト放送と言えども、非常に、4月以降の話題の番組になるでしょう。他局にない番組ということで、このセールスは非常にすすんでますから。他局に比べて、これを中心に展開していることが、優位に働いているんじゃないかなと思います。

質問：2000年度は視聴率4冠はほぼ間違い無いと思いますが、4月期に大規模改編になるのではないかと聞いておりますが、このあたりの意図を。

萩原専務：

初めに今年にはいつてからの、視聴率の動向であります。昨年比でいいますとかなり2位との差が、縮まっております。はっきり申し上げて、あんまり心配しておりません。ちょうど適度な緊張感があって、いいかなぐらいに考えております。

フジテレビさんがいいのはドラマなんですね、「ヒーロー」が30何%たいへん結構なんですけど、まもなく終わります。フジテレビさんのドラマ枠が5枠ございまして、(現在)平均が21%くらいあるんじゃないかと思えますね。今までのフジテレビさんのドラマの平均を1年間でとって見ると、約15%なんですね、5枠の平均が。そうしますとですね、たとえば4月通常のリレーティングに戻ったとすると、5枠の平均ですよ、10もあるでしょうし、20もあるという。そういうことですが、多分15~16%に落ちつくのが正常な状態です。平均で5枠が6%落ちることですね。25~30ポイントうちに行くということになりますとしますと、ゴールデン、プライムともに約1%ダウンすると考えていいわけです。これは机上の計算だと言われれば、それまでなんです。データ的に言うとそういうことになります。フジテレビさんのドラマが通常の状態にもどると考えると、それほど危機感、

危機感は常にもっていなきゃいけないんですけど、慌てるとかそういうことはございません。むしろ、しっかり足元をかためて、行こうと。

質問：民放の今後のありかた、マスメディア集中排除の原則の問題をどうするかというような問題、地上波デジタル化への対応として日テレさんはどのように、ネットワーク内でお話しをすすめられていくか？その2点について。

氏家社長：

後者の部分に関しては、まだお話しをすすめる段階じゃありませんので、いずれにせよ、ネットワークをまもっていくという形ですすんでおりますから、そういうふうに行っております。でね、前の方の部分につきましてはね、これ実は資本とも密接に関係あるのよね、テレビに出資してる。つまり、同じ規制を受けているわけよ。いわゆる、集中排除っていうのは。で、これがね、いったいどこまで現実にと妥当であるのかって問題は、かなり緩めてもいいんじゃないかなという気がしてるんですけどね。

というのは、経済効率優先で今考えられていますから、仮にそういう意味での、あんまり、合併しちゃいけないんだとか、株もちすぎちゃいけないんだとか、効率に反しますよね。結果としてね。これを、どのへんで妥協するべきかということが、社会的にコンセンサスを得るかということだと思ってるんですね。

以 上